

## 2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	複雑系科学応用小委員会	主 査 名：朝山秀一 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：新宮清志
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>現代科学にパラダイムシフトをもたらしたといわれる複雑系科学は、経済学、社会学、電気、機械、海洋、宇宙、生物、医学など幅広い分野で応用され、これまで複雑で解明が不可能と思われていた現象を徐々に解明しつつあり、今後の成果が大いに期待されている。しかし、建築・都市分野においては、これまでの啓蒙活動により、ようやく複雑系科学が知ら始めた段階で、それを活用した事例はまだ少ない状況にある。そこで、こうした複雑系科学を建築・都市・社会の問題に具体的に適用して、これまで解明が困難であった事象を研究するとともに、それをベースとした建築・都市・社会を構築する設計システム及び設計事例を研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005 年度</li> <li>1 . Algorithmic Design および Algorithmic Architecture の調査・事例収集開始</li> <li>2 . 書籍「複雑系アルゴリズムの建築(都市、社会)&lt;仮称&gt;」出版企画開始</li> <li>3 . 「アルゴリズムミックデザイン特別研究委員会」設置申請</li> <li>4 . 2006 年度建築学会大会研究協議会(もしくは PD)応募</li> <li>・2006 年度</li> <li>1 . 版企画書「複雑系アルゴリズムの建築(都市、社会)&lt;仮称&gt;」執筆</li> <li>2 . 企画・出版 WG、Algorithmic Design 調査研究 WG 設置申請</li> <li>3 . 「アルゴリズムミックデザイン特別研究委員会」再設置申請(前年度不採択のため)</li> <li>4 . 第 29 回情報シンポ研究集会開催</li> <li>・2007 年度</li> <li>1 . Algorithmic Design および Algorithmic Architecture の調査・事例収集継続</li> <li>2 . 書籍「複雑系アルゴリズムの建築(都市、社会)&lt;仮称&gt;」のシンポジウム開催</li> <li>3 . 展示会「複雑系アルゴリズムの建築(都市、社会)展&lt;仮称&gt;」開催</li> <li>4 . 第 30 回情報シンポ研究集会開催</li> <li>・2008 年度</li> <li>1 . Algorithmic Design および Algorithmic Architecture の調査・事例収集継続</li> <li>2 . 「複雑系アルゴリズムの建築・都市見学会&lt;仮称&gt;」実施</li> <li>3 . 第 31 回情報シンポ研究集会開催</li> <li>4 . 複雑系による新たな建築・都市・社会のデザインの方法と事例について会員相互の理解と啓発を深めて、小委員会活動を総括する。</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し	
設置 WG (WG 名：目的)		
2005 年度予算	240,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は 除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・ 研究会・見学会等）	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得ら れた成果との関係）	<p>1 . Algorithmic Design および Algorithmic Architecture の事例収集し、委員会でその定義、現状について議論した。</p> <p>2 . 書籍「複雑系アルゴリズムの建築(都市、社会)&lt;仮称&gt;」出版企画開始し、目次の1次案を作成したが、まだ出版企画書を作成するには再考すべきとの結論に到った。</p> <p>3 . 「アルゴリズムックデザイン特別研究委員会」設置申請を行った(結果は、不採択)。</p> <p>4 . 2006 年度建築学会大会 PD 応募を検討したが、2006 年度は、既に情報システム技術委員会として研究協議会と PD 各 1 つ予定されており、見送りとなった。</p> <p>今年度は、当初の目標に向かって活動はしたものの、残念ながら達成度は 50% 程度と考えられる。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1 . 今年度は、上記 4 項目の活動を実施したが、Algorithmic Design および Algorithmic Architecture の事例収集と出版企画書の目次の 1 次案ができただけで、それ以外では、目標を達成することができなかった。その原因として、Algorithmic Design の定義について、委員間の認識が統一できていないことなどが挙げられるが、委員会は 5 回開催されており、そこで行われた議論が次年度の成果に大きく結びつくものと期待される。</p> <p>2 . 運営に際し、初年度であることを考慮してなるべく小委員会全体で議論したが、早期に WG を設置して企画や事例収集などの作業を WG で進めたほうが、円滑で速い委員会運営ができたのではないかと反省される。</p>
その他	